



イクボスとは?

育児や介護などさまざまな事情で働き方に制約のある社員が増える中、部下の私生活とビジネスの成果を両立させる上司(ボス)のこと。

Special Interview

元祖イクボスに聞く!

これからの企業も人も幸せになる働き方

今月11月の「男女共同参画フォーラム」基調講演でお話いただく、NPO法人ファザーリング・ジャパンの理事である川島高之さんに、女性の活躍促進や男性の家事・育児参画、働き方の見直しが求められるいま、Work(働く)、Life(子育て・家事・介護や趣味など)、Social(PTA・NPOなどの地域活動・地域貢献)という3つの視点から、これからの時代を生き抜くヒントをいただきました。

三井物産ロジスティクス・パートナーズ株式会社 代表取締役社長
NPO法人ファザーリング・ジャパン 理事

川島高之さん



プロフィール Takayuki Kawashima

1987年、慶応大学を卒業し三井物産(株)に入社。現在は系列上場会社の社長。1児の父親であり、地元の小・中学校のPTA会長、少年野球のコーチなども務めてきた。また、イクメン関連のNPO法人ファザーリング・ジャパンの理事、子ども教育関連のNPO法人コチカラ・ニッポンの代表でもある。子育てや家事の経験(ライフの視点)、商社勤務や会社社長の経験(ビジネスの視点)、PTA会長やNPO代表の経験(ソーシャルの視点)という3つを融合させた講演を各地で展開中。最近では、NHKのクローズアップ現代に「元祖イクボス」として登場。



息子さんとのツーショット

川島さんが息子さんに毎朝作っているお弁当



——まず、ファザーリングジャパン(以下FJ)での川島さんの活動を教えてください。

FJは2007年にイクメン(子育てに積極的に関わる男性)を広げるために設立したNPOですが、ここにきてイクボス(育児や介護などさまざまな事情で働き方に制約のある社員が増える中、部下の私生活とビジネスの成果を両立させる上司)を広める活動も増えてきています。

私自身はイクメンという年代でもありませんので、イクボスや子ども教育の講演が多いです。

その他にもFJでは、働く女性支援や障がいのお子さんを持つ父親支援、父子家庭の支援など、20~30のプロジェクトを同時並行で進めています。

——イクボスの川島さんにお尋ねします。これからの時代、仕事におけるマネジメントには何が必要ですか?

まず個人として、「自分の人生をひとつの会社だと思って、その社長になる、経営責任も負う」という気持ちが必要だということ。勤め人は何となく受け身で、上から「こうしろ」と言われて、「言われたことをやる」という姿勢だから、実は仕事の成果も低いと思うんです。そうではなく自分でマネジメントする。仕事とプライベートをどう両方するのか。受動的ではなく能動的に。「社会が」「職場が」「景気が」といろんな理由をあげて「だからできない」と不満を言うだけでは、1ミリも得るものはありません。

次に上司として、ひとつは個人と同じで、当たり前ですが組織のマネジメントに責任を持つ。

そしてもうひとつはイクボス的発想です。労働力がたくさんあって、専業主婦がそれを支えた「個性のない大量生産時代」はもう終わっています。これからは、付加価値やイノベーションが必要。そのためには男性、女性、いろんな考えをもつ多様な人たちがが必要です。多様な人をマネジメントできる人のみがこれからの管理職として生き残るんです。

マネジメントには全体を見て大きな方向性を示し、部下に自主性を持たせながら「何かあったら頼ってこいよ」という姿勢が必要です。

——それを可能にする方法は?

私は一人ひとりをよく知ることから始めました。会話して、自然にプライベートの話も聞くようになり、趣味や考え方を知る。数か月もすると個性がわかってきます。そのうえで、「キミにこういう分野を任せる」。これが適材適所。

「自分という会社」の経営者になろう。

——ワーク・ライフ・バランスという言葉は浸透してきましたが、「そうはいつでも…」という言葉が聞きますか?

私の場合、大企業にいたときは全体の制度は変えられませんが、一部門だけなら可能でしたし、今の会社は中小企業ですが、ワーク・ライフ・バランスを取り入れて労働時間は減り、業績も上がりました。これは私のところだけでなく企業規模問わず、できている企業はいっぱいあります。できないところはみんな、まずできない理由をあげる。そうではなくて、できるための手段を考えなくてはいけないし、むしろ今そうしないと生き残れない。よく話をするのは「ワーク・ライフ・バランスは福利厚生ではなく経営戦略だ」ということ。企業が持続的に発展し、しっかりと収益を上げるための欠かせない手段なんです。やり方も複雑な経営テクニックが要るのではなく、人間として当たり前の、個人を尊重し、社員を信じ、最後は経営として責任をもつと言いつつ、これだけでいい。

ワーク・ライフ・バランスの講演をする中で、ワーク、ライフ、ソーシャルの三脚の人生を送ろうよ、という話をします。それぞれがシナジーを起こすから、それぞれのレベルも高まる。これはシニアや若者、男女に限らず同じこと。私もPTAと少年野球で子どもと過ごしましたが、実はそれは地域のためになっている。

地域振興や地域創生って、職場や家庭にこもっている人たちが、いかに引っ張り出してくるにかかっていると思います。そのためにはイクボスが必要。これらは実はすべてつながっている。イクボスがいないと会社で働くお父さんは地域活動ができない。だからそこにきちんと時間が取れるように管理職はマネジメントして、生産性を高めることが必要だと思います。

ただしそうは言いながらも、全員がバラバラではいけません。目指すところをトップダウンではなくみんなで考え共有します。その中であまりに方向性が変わらそうだったら声をかけますが、基本は見守ります。これは子育てと同じですね。

——最後に働く三重県の男性・女性へのメッセージを!

まず人生は一回だからワークもライフもソーシャルも全部やった方がいい。やらなかった後悔の方がやって失敗した後悔よりもデカイ。後でしようとしても間に合わないし、苦勞する。やれるときに全部やっちゃったらと思います。

次に、その3つを全部やるためには自分で自分の人生をマネジメントするだけの意思や覚悟を持ってください。

そこで初めて手段です。例えば1~2時間早く帰れる方法を探したり、あとの時間を「ない」と決めて、週に1度定時に帰ってしまう。うまくいけば週2回、3回と増やしていくなど、少しづつやるのがコツです。「まあ忙しいから早く帰れなくてもしょうがない」となりがちだけど、一度やると決めたら退路を断ち、夜残る時間はないものとして自分を追い込むことも必要。手段については他にもたくさん言いたいことがあります。まずは「ワークとライフ、ソーシャルの全てをやったほうがいい」「そのために自分の人生をマネジメントする覚悟をもつ」ことから始めてもらえればと思います。

お話の続きはこちらで

11/15 [日] 多目的ホール 他

男女共同参画フォーラム ~みえの男女2015~

企業も人も幸せになるこれからのWork&Life Style
入場無料(事前申込制・先着順)

川島高之さんを講師に迎えての基調講演「実践! イクボス式マネジメント~「時間vs成果」という新しい視点~」を開催。また、同時開催の「女性の活躍推進三重県会議1周年記念大会」では、川島さんと中京テレビアナウンサー恩田千佐子さん、鈴木英敬三重県知事との豪華トークイベント「子育てとキャリアのバランス~子どももキャリアも諦めない!~」も合わせて開催します。ぜひご来場ください! 詳しくは [フレンテみえ](#) で検索!



NPO法人ファザーリング・ジャパンとは...

「子どもが生まれ、父親になったら、仕事も育児も両立しながら楽しんで生きていきたい」。そうした「Fathering=父親であることを楽しむ」という意識の理解・浸透こそが「よい父親」ではなく「笑っている父親」を増やし、それが働き方の見直し、企業の意識改革、社会不安の解消、次世代の育成に繋がり、10年後・20年後の日本社会に大きな変革をもたらすという信念を、これを目的(ミッション)としてさまざまな事業を展開している、ソーシャル・ビジネス・プロジェクト。「子育てババ力検定」「イクボスプロジェクト」など様々な事業を展開中。
ファザーリング・ジャパンHP: <http://fathering.jp/>